2014 年度 小委員会活動成果報告

（2015 年 1 月 5 日作成）

<table>
<tr><td>小委員会名</td><td colspan="2">環境まちづくり小委員会</td><td>主 査 名：川﨑興太
就任年月：2013 年 4 月</td></tr>
<tr><td>所属本委員会
（所属運営委員会）</td><td colspan="2">都市計画委員会</td><td>委員長名：有賀隆</td></tr>
<tr><td>設 置 期 間</td><td colspan="3">2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月</td></tr>
<tr><td>設 置 目 的
各年度活動計画
（箇条書き）</td><td colspan="3">都市計画にかかわる環境政策・制度の整理・分析を行うとともに、土地利用政策、交通政策、エネルギー政策などを含めた総合的な観点から、環境モデル都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地における環境まちづくりの実態と課題を把握し、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについての探求・提言を行うことを目的とする。
【2013 年度】
・環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行う。
・学会全国大会に際しては、オーガナイズドセッションを実施する。
・環境まちづくりに取り組む自治体を対象として、現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握する。
【2014 年度】
・環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に検討する。
・学会全国大会に際しては、研究懇談会を実施し、東日本大震災および福島原発事故後における環境まちづくり政策の動向、津波被災地域と放射能汚染地域における環境まちづくりの実態と課題などについて議論する。また、オーガナイズドセッションを実施する。
・公開シンポジウムを実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりにかかわる最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向について報告・討論する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">委員構成
（委員名（所属））</td><td colspan="3">委員公募の有無：有</td></tr>
<tr><td colspan="3">主査：川﨑興太（福島大学）
幹事：大和田清隆（オリエンタルコンサルタンツ）、小野尋子（琉球大学）
委員：安藤尚一（政策研究大学院大学）、池田孝之（沖縄美ら島財団）、郭東潤（千葉大学）、加藤宏承（オリエンタルコンサルタンツ）、斎藤伊久太郎（千葉大学）、斎藤充弘（福島工業高等専門学校）、田中宏実（藤女子大学）、辻本乃理子（大阪健康福祉短期大学）、藤本典嗣（福島大学）</td></tr>
<tr><td>設置 WG
（WG 名：目的）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2013 年度予算</td><td>200,000 円</td><td colspan="2">ホームページ公開の有無：有
委員会 HP アドレス：http://blogs.yahoo.co.jp/kankyo_machi</td></tr>
</table>

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	

催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	１．2014 年度公開シンポジウム「環境まちづくり最前線－現在の到達点と今後の展望－」　11 月 7 日　参加者数：18 名
大会研究集会	・オーガナイズドセッションの開催 ・ 研究懇談会「環境まちづくり最前線－東日本大震災および福島原発事故後の動向を中心に－」開催
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	【2013 年度の成果】 １．環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行うことができた。 ２．学会全国大会においては、オーガナイズドセッションを実施し、除染や再生可能エネルギーなどに関して、議論を深めることができた。 ３．千葉県山武市を対象として現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握することができた。 【2014 年度の成果】 ４．環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行うことができた。 ５．学会全国大会においては、研究懇談会を実施し、東日本大震災および福島原発事故後における環境まちづくり政策、津波被災地域と放射能汚染地域における環境まちづくりなどについて議論することを通じて、環境まちづくりの実態と課題、今後のあり方に関する知見を深めることができた。 ６．また、学会全国大会においては、オーガナイズドセッションを実施し、環境教育、除染、再生可能エネルギーなどに関して、議論を深めることができた。 ７．公開シンポジウムを実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりにかかわる最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向について報告・討論することを通じて、現在の環境まちづくりの到達点を確認し、今後のそのあり方を展望することができた。 以上から、目標を十分に達成することができたと考えられる。
委員会活動の問題点・課題	小委員会として精力的に活動を進めたが、２年間という限られた時間では最終的な活動成果として企画を進めている出版までは辿り着くことが難しかった。今後、さらに研究活動を続け、出版物として成果を出したい。

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。